



## 機甲教導連隊の新隊員 戦車に乗り込み、装填手の動きを実践



自衛隊静岡地方協力本部は8月4日（火）と5日（水）、機甲教導連隊が東富士演習場（御殿場市・裾野市・小山町）で行った、新隊員の戦車装填手訓練を取材した。

強い日差しが照り付ける中、演習場を見渡せる丘の上に集合した新隊員たちは、まず周辺に生えている草を車体に括り付けて、4両の戦車を偽装。さらに顔に緑や茶色のドーランで迷彩メイクを施して準備を整えると、一人ずつ順番に、車長・砲手・操縦手の教官らとともに戦車に乗り込んだ。

今回の訓練は、丘の上に陣を構えている敵を攻撃する想定で行われた。新隊員が乗った戦車が下方から進攻し、途中、敵に扮した車両や戦車を見つけ、空砲で射撃を行う。

新隊員は、砲塔の左側のハッチから顔を出し、目視で敵の場所を確認すると、車長の指示のもと弾を装填する。土煙を巻き上げながら進む戦車の中から、草むらに隠れた敵を探し出すこと、実際と同じ流れで弾を装填することなど、初めての経験ばかりではあったものの、新隊員は隣にいる教官の言葉にしっかりと耳を傾け、これまで学んできた動作を正確に行おうと、真摯に訓練に取り組んでいた。静岡地本は、今後も部隊と協力して訓練に励む隊員の姿を取材し、写真や映像を通じて自衛隊の魅力を伝えていく。

## 女性自衛官が大原法律公務員専門学校で講話

自衛隊静岡地方協力本部（本部長・杉谷康征1等空佐）は8月31日（月）、大原法律公務員専門学校浜松校（浜松市）において、臨時勤務中の女性海上自衛官・小林なみ海士長による講話を実施した。

小林士長は、同校の1、2年生90人に自己紹介をした後、まず自衛隊の任務には「国の防衛」「災害派遣」「国際協力」等があることを紹介。次に、入隊後、最初に訓練を受ける教育隊での生活について、最初は不安があったものの、仲間と協力して訓練を乗り切ったこと、実家を離れて家族のありがたみを再確認したこと、教育隊が都心に近い場所に位置していることから、充実した休日をお過ごされたことなどを話した。

また、自らの腕立て伏せの回数向上を例に、段階的な訓練によって無理なく体力がつけられることを説明し、体力面に自信がない人への不安解消に努めた。

続いて艦艇勤務について、1日の生活の様子や美味しい食事、勤務時間外に行った上司や同僚の誕生日会など楽しいイベント、香港地での様子を紹介し、厳しい訓練ばかりではないこと、夏季や年末年始に連休が取得しやすいことなどを挙げ、働きやすい職場であることをPRした。特に、勤務する護衛艦から見た美しい景色や砕氷艦「しらせ」から撮影したオーロラなどを紹介すると、聴講する学生からは驚きの声が出た。

小林士長は、その後の質疑応答や個別相談でも学生の不安や疑問に誠実に答え、職業選択における自衛隊への誤解を取り除いた。

静岡地本は、これからも具体的な説明を実施し、自衛隊に対する認識と理解の向上に全力を尽くす。

